

わたしたちのくらしと 地域経済を支えるインフラ

本県では「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を計画的に進めることで、ストック効果の高い社会資本を整備し、安心と希望を育む『みやざき新時代』の実現を目指します！
この事例集は、このような本県の取組を紹介します。



令和4年4月15日 シンセン！新船！「フェリーたかちほ」就航！



令和5年1月
宮崎県 県土整備部



目次

【高速道路】

P 1 大規模災害発生時に **支援路・代替路**として機能！

P 2 高速道路の整備が **地域の活性化**につながる！

【道路】

P 3 輸送効率化により **地域の経済成長**を促進！

P 4,5 災害に強い **道路ネットワークの整備**を推進！

P 6 橋梁の耐震性能強化で **大規模地震発生時**における人流・物流の確保！

【港湾】

P 7 港の整備による **基幹産業の活性化**！

P 8 陸路と海路の整備による **物流機能の拡大・強化**！

P 9 港の整備による **県南地域の産業活性化** と 災害発生時における **受入体制の確保**！

【河川・砂防】

P10 河道掘削や **ダム事前放流** の効果を **発揮**！ ～三財川～

P11 河道掘削 により **浸水家屋数が半減**！ ～五十鈴川～

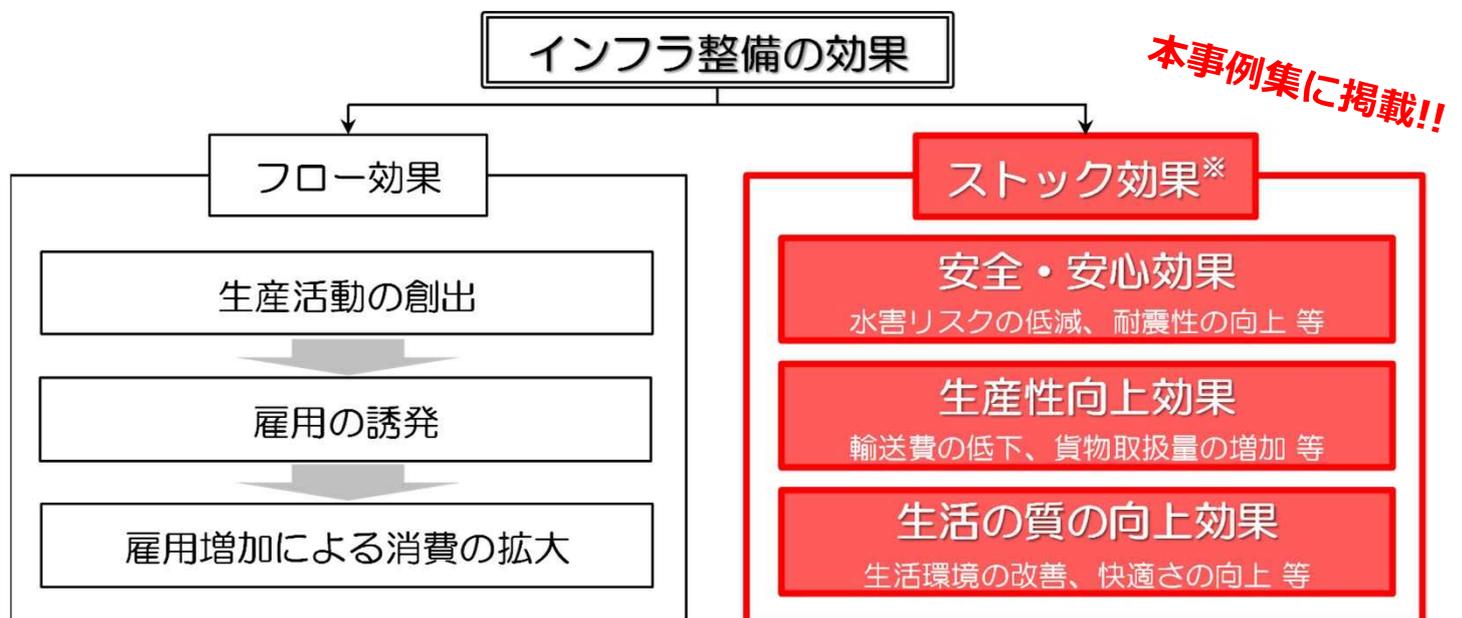
P12 ハード・ソフト一体となった土砂災害対策により **地域防災力が向上**！

【都市整備】

P13 国スポ・障スポ2027開催に向けた **公園整備**で防災力向上を推進！

P14 鉄道高架と一体となった **魅力あるまちづくり**の推進！

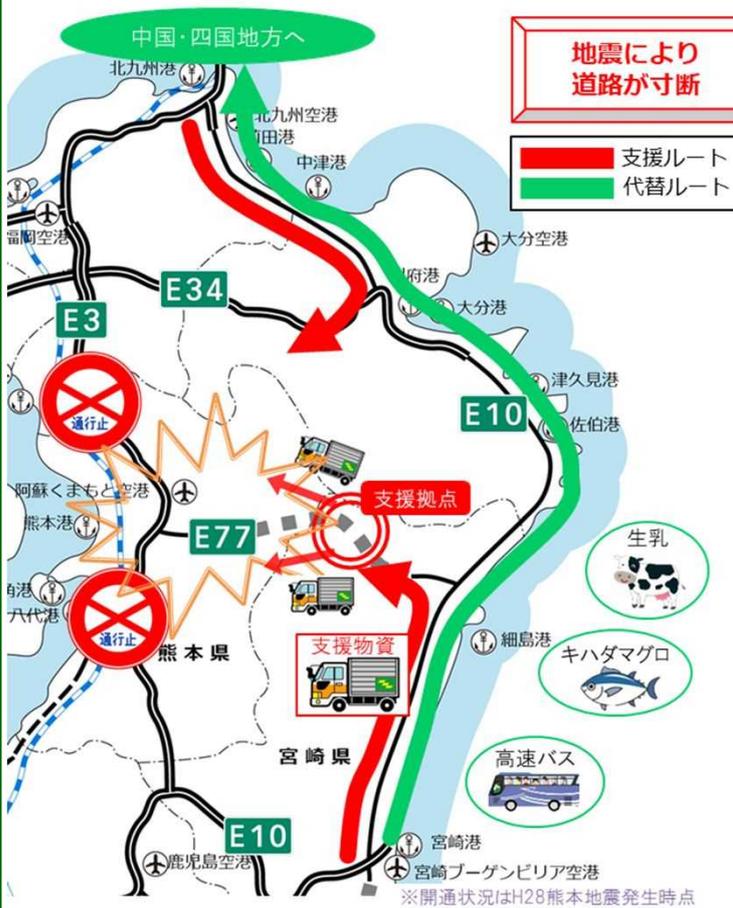
ストック効果とは？



※整備されたインフラが機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果

東九州道・九州中央道

熊本地震発生後において、東九州自動車道、九州中央自動車道が被災地の復興及び九州全体の経済を支える役割を果たした！

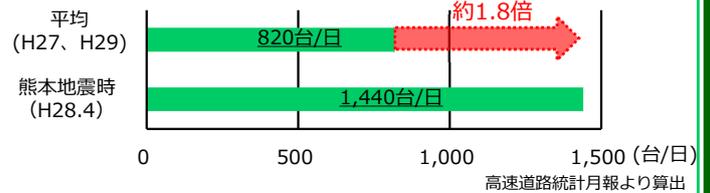


被災地への支援ルートとして機能



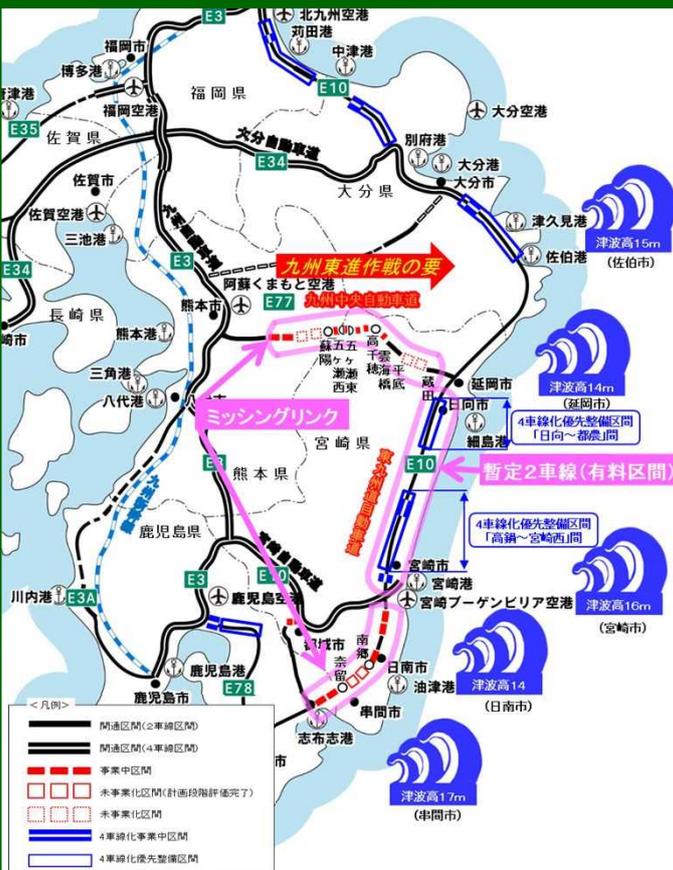
九州縦貫自動車道の代替ルートとして機能

【中型車以上交通量（門川IC～清武南IC）】



東九州自動車道を利用して、被災地へ物資を輸送
また、宮崎・鹿児島から本州方面への物流ルートを確認

求められるミッシングリンク解消と4車線化



ミッシングリンク解消

南海トラフ地震発生時の支援ルート確保

南海トラフ地震発生時
東九州地域沿岸部は大津波により地域が孤立

暫定2車線区間の4車線化

高速道路が被災した際、早期の交通機能回復

令和2年7月豪雨では、土砂崩れなどにより九州縦貫自動車道で通行止めが発生
4車線区間であったことから
被害のない車線を活用し、早期に交通機能を確保

災害に強い
道路ネットワーク

安全・安心の確保

高速道路の整備が地域の活性化につながる！



平成23年度以降の開通状況

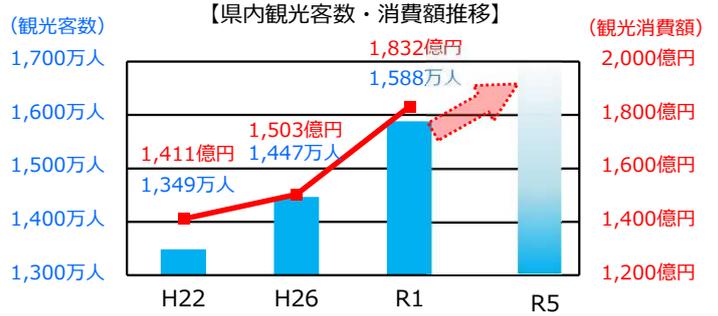


令和4年12月



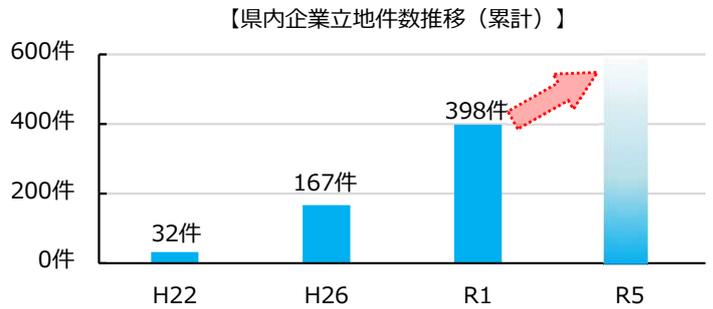
観光客の増加

観光消費額 (H22)1,400億円 ⇒ (R1)1,800億円
観光客数 (H22)1,300万人 ⇒ (R1)1,600万人



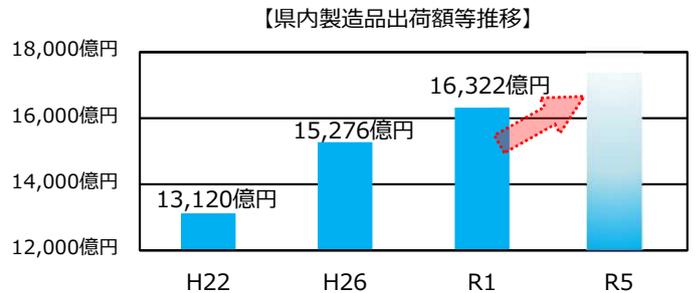
進む企業立地

企業立地件数 (H22~R1累計) 398件



企業活動の活性化

製造品出荷額 (H22)13,120億円 ⇒ (R1)16,322億円



開通を見据えた地域活性化の取組

「清武南～日南北郷」間の開通により、日南市から宮崎市までの所要時間が東九州道 県南区間の未整備時と比べて、**約24分短縮!**

さくらヒルズ北郷整備事業



道の駅くしま



道の駅北郷 (仮称)



日高嶋工業団地



輸送効率化により 地域の経済成長を促進！



都城IC周辺地域の投資を誘発！



基幹産業の競争力向上を支援！

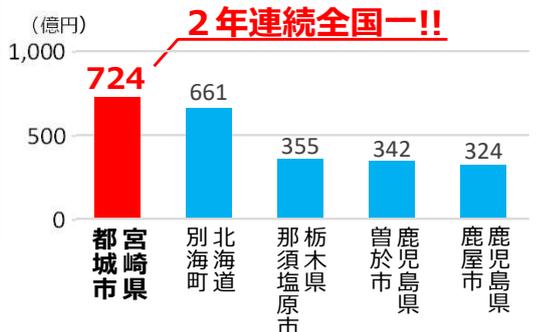


輸送時間が短縮され、県内各地へ
安定的な飼料輸送が可能！

【宮崎牛】 史上初！
4大会連続で内閣総理大臣賞受賞！

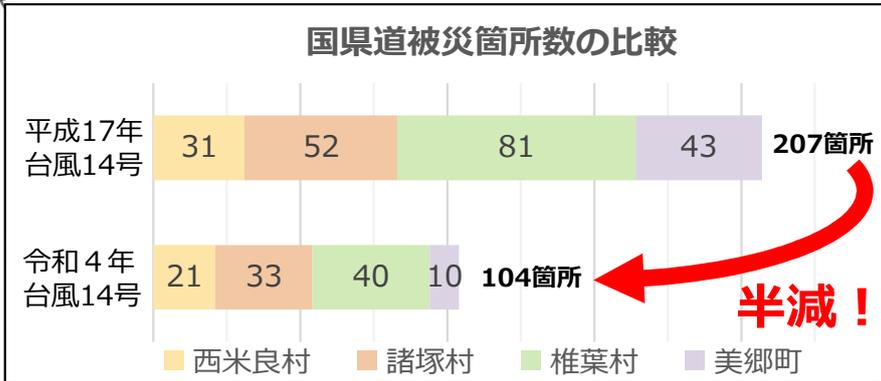
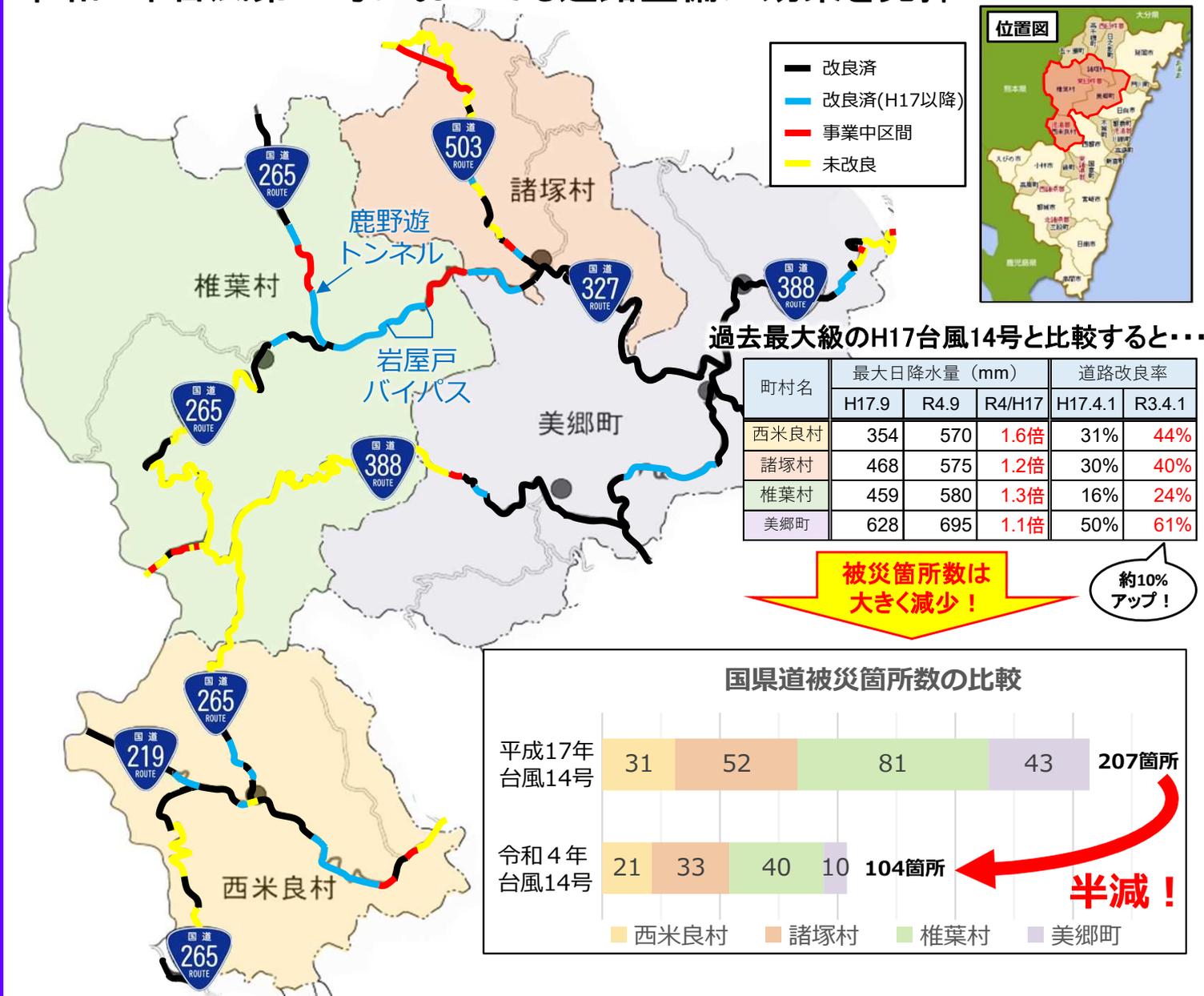


令和2年 都城市畜産産出額



災害に強い道路ネットワークの整備を推進！

令和4年台風第14号においても道路整備が効果を発揮！



【R327】 通行止めが大幅削減



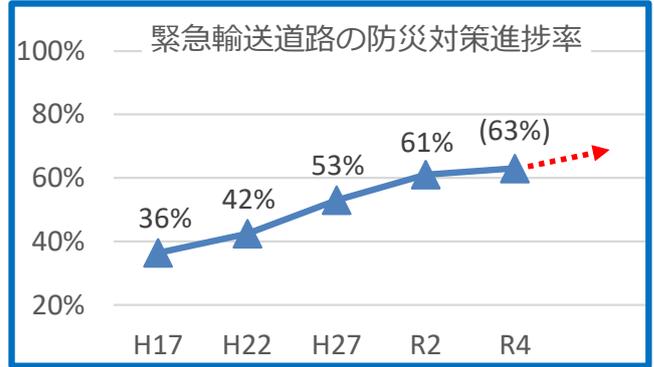
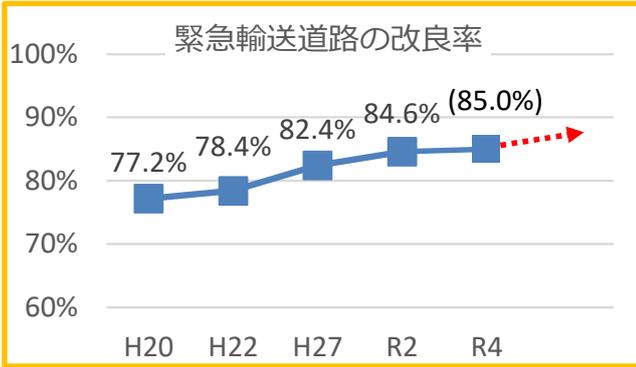
岩屋戸バイパスの開通後、災害による通行止めが11年間ゼロ(H23~R3)に！
385日間(H17~H22)→0日(開通後)

【R265】 交通途絶を早期解消



2車線で整備済であったため、即日開放が可能となり、緊急輸送ルートとして機能！
9/19通行止→同日、片側開放→9/23全面解除

災害から県民の命と暮らしを守るため、避難や救命救急、復旧活動等を支える緊急輸送道路ネットワークの整備を推進！

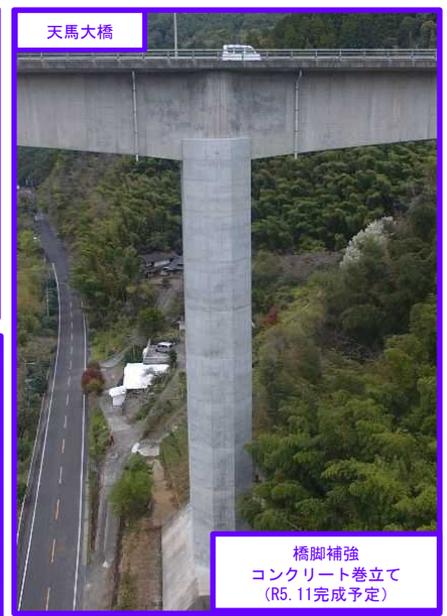
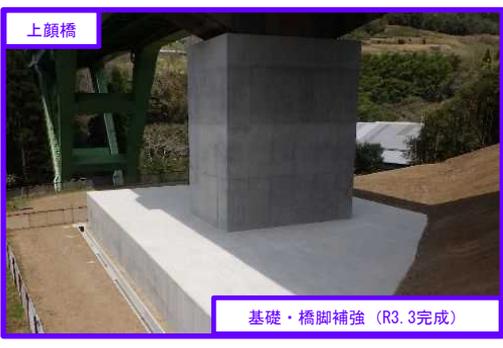


「被災する道路」から「救援する道路」へ！

橋梁の耐震性能強化で 大規模地震発生時における人流・物流の確保！



九州東進作戦の要となる国道218号(優先啓開ルート)の橋梁の耐震補強を推進



南海トラフ大地震発生時においても通行可能な状態を維持することで、
人流・物流を確保し、熊本、福岡方面からの支援を受けることが可能となる。

港の整備による 基幹産業の活性化！

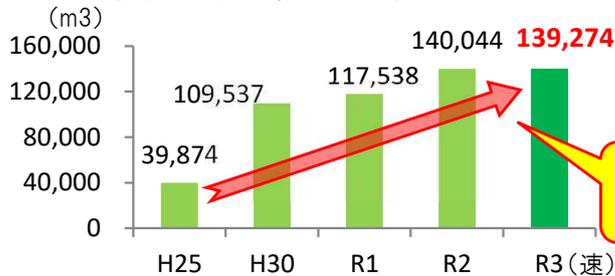


16号岸壁 整備により木材消費量の拡大に対応！

製材消費量増加と原木輸出量増加で林業再生に期待！

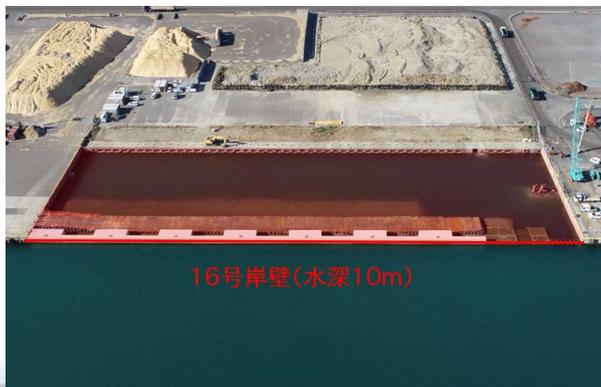
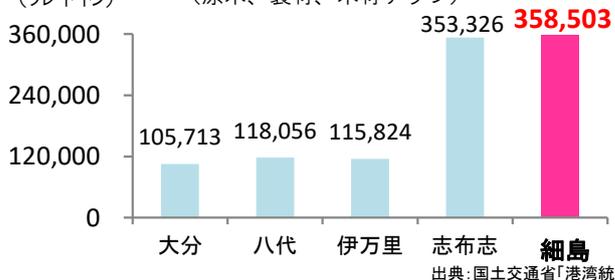


耳川流域を中心に細島港に集荷される原木



丸太輸出量が約4倍に!!

■ 細島港の林産品輸移出量(令和2年) 九州1位



原木を取扱う岸壁が整備され、
林産品輸移出量のさらなる増加が期待！

19号岸壁 新規事業採択 RORO船の大型化に対応！



RORO岸壁と背後ふ頭用地を整備



重要港湾 宮崎港

サイドスロープ整備により荷役時間を短縮！

陸路と海路の整備により
貨物やフェリー乗降客数の増加に期待！



- また、フェリー大型化との相乗効果も見込まれる！
- ◎トラック積載台数の増加で、ドライバーの負担軽減
 - ◎都市圏向け、安価で大量輸送が可能
 - ◎個室増加(29室から220室に)で、多様な旅客ニーズに対応



サイドスロープ(車輛乗船用可動橋)設置により、
荷役時間短縮(2時間50分から1時間40分に)

新船「フェリーたかちほ」2022年4月15日 就航
新船「フェリーろっこう」2022年10月4日 就航

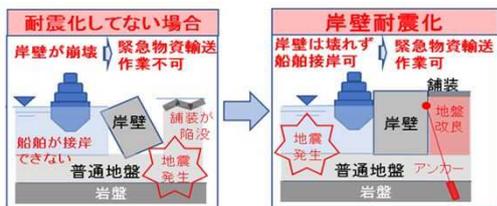


港の整備による 県南地域の産業活性化と 災害発生時における受入体制の確保！



耐震強化岸壁により災害発生時の受入体制を確保！

M8.9の大震災発生時、日南市・串間市の約7万人へ ◎耐震強化岸壁の整備(国土強靱化) 令和3年度完成
緊急物資の輸送が可能に！

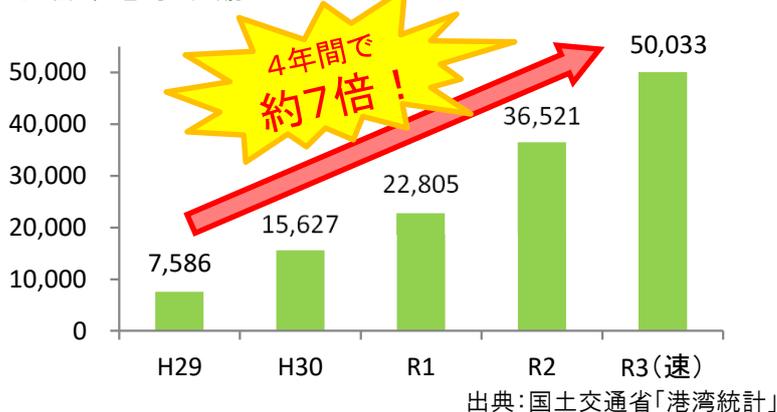


県内の重要港湾(細島、宮崎、油津)に耐震強化岸壁が配置され、災害発生時に **県内全域にスピーディかつ効率的に** 緊急物資が行き届くことになる



原木の輸出増加に対応するため既存施設を活用！

◎油津港原木輸出货量

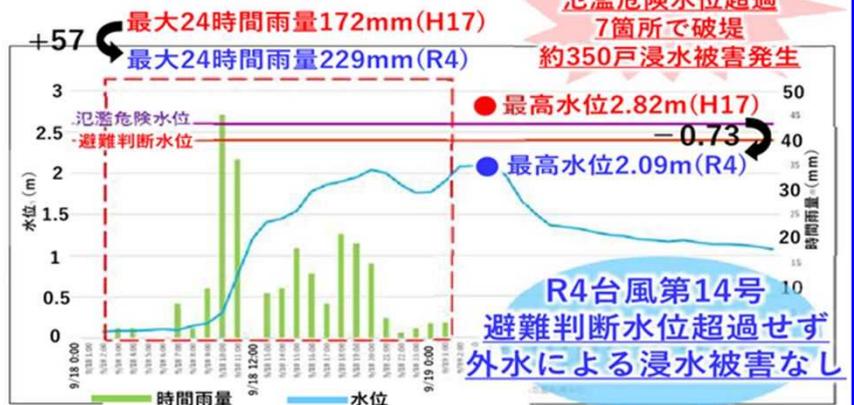


河道掘削やダム事前放流の効果を発揮～三財川～

令和4年9月台風第14号の最大24時間雨量が平成17年台風第14号より約60mm上回ったにもかかわらず、河道掘削やダム事前放流等の対策により、河川水位が約70cm低下し、外水による家屋浸水被害なし。



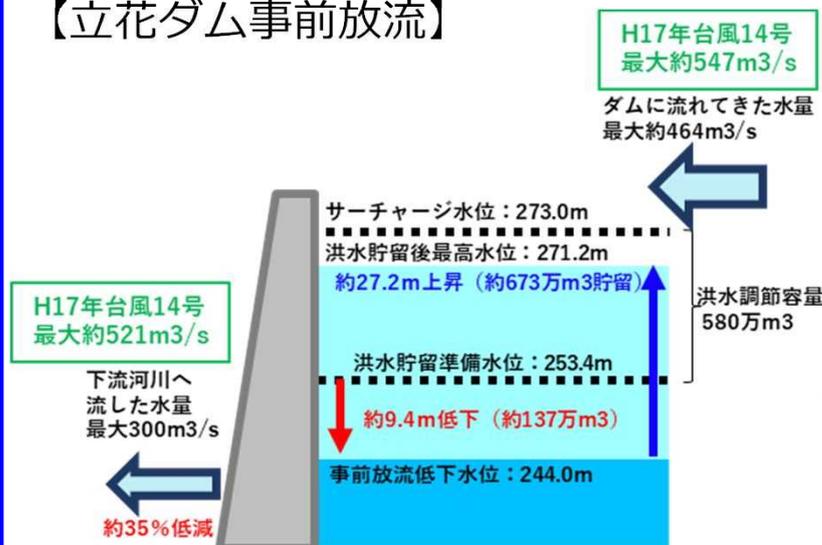
三財川(岩崎橋水位)



【河道掘削】



【立花ダム事前放流】



河道掘削により浸水家屋数が半減～五十鈴川～



令和4年9月台風第14号の最大24時間雨量が平成28年台風第16号より約170mm上回ったにも関わらず、河道掘削により、河川水位が55cm低下し、浸水家屋数が半減。

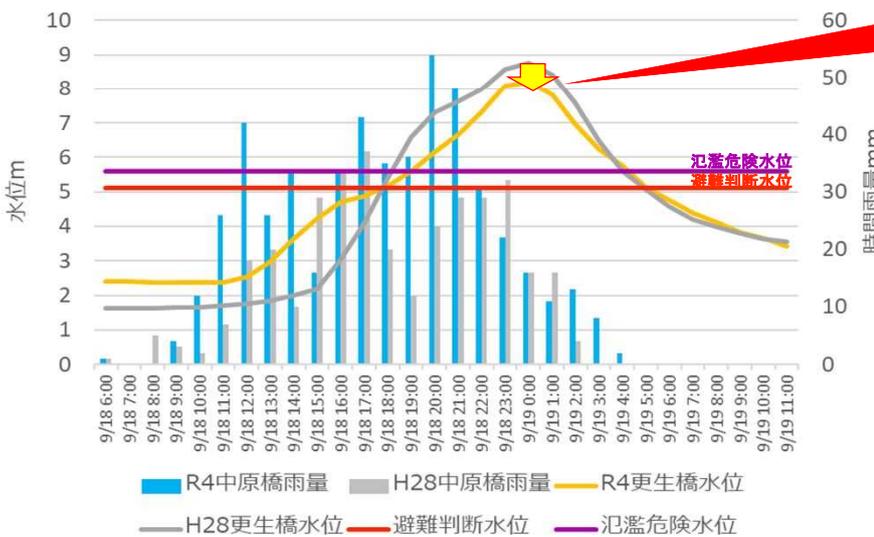
いすずかわ

【五十鈴川位置図】



防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策事業等により集中的に河道掘削(H30～R3で約14万m³)及び河川内の樹木伐採を実施

令和4年台風第14号五十鈴川（更生橋水位）



H28最高水位 8.76m
↓(0.55mの水位低下)
R04最高水位 8.21m

R04最大24時間雨量515mm
↑(H28を上回る雨量)
H28最大24時間雨量348mm



対策前



対策後

家屋浸水件数		住家	住家計
平成28年台風第16号	床上	18	38
	床下	20	
令和4年台風第14号 (令和4年9月末時点)	床上	2	19
	床下	17	

対策実施により被害軽減

※家屋浸水件数等の数値は速報値であり、今後の水害統計調査の結果によって変動する場合があります。

「いのち」と「暮らし」を守る
ハード・ソフト一体となった土砂災害対策により

地域防災力が向上！



土砂災害から命を守るインフラの強化

信成町-1地区
(宮崎市)

土砂災害防止施設



令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」
作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)



「きけんをなくそう」(宮崎市立那珂小学校3年生)

じゅぎょう中、(中略)先生が、「土石りゅうがおこらないように、学校のうら山を工事しているんだよ。」と教えてくれました。(中略)

土石りゅうがおこる前に、工事してもらえてよかったです。(中略)いつ土石りゅうがおきるか分からないので、**いつでもにげられるように**、ひじょう食や水を用意して、**ひなん場所を家族で決めておこう**と思いました。(中略)

宮崎は、山が多くて大雨がふるときけんな所が多いので、工事がすすんで安心してくらせる町になるといいと思います。

施設整備をきっかけに、地域住民の防災意識が高まり、ハード・ソフト両面からの**地域防災力が着実に向上**

計画的な施設整備により土砂流木を捕捉し、下流の被害を防止

【令和4年台風第14号】

令和元年9月(被災)

- 河川名 一ツ瀬川水系竹之元川(西米良村)
- 被災状況 住宅等被害: 床上浸水2世帯
公共施設被害: 林道崩壊L=145m



令和3年6月(完成)



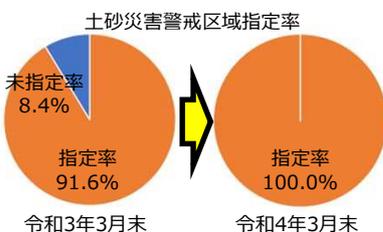
令和4年9月(台風第14号)



地域の防災力を高める警戒避難体制の強化

土砂災害警戒区域
指定状況

土砂災害警戒区域15,276箇所
指定率100%(R3年度末)を達成



市町村による
危険箇所等周知看板設置



土砂災害防止
教室・講座



コロナ禍での土砂災害
を想定した避難所体験



日本のひなた宮崎国スポ・障スポ2027開催に向けた 公園整備で防災力向上を推進！

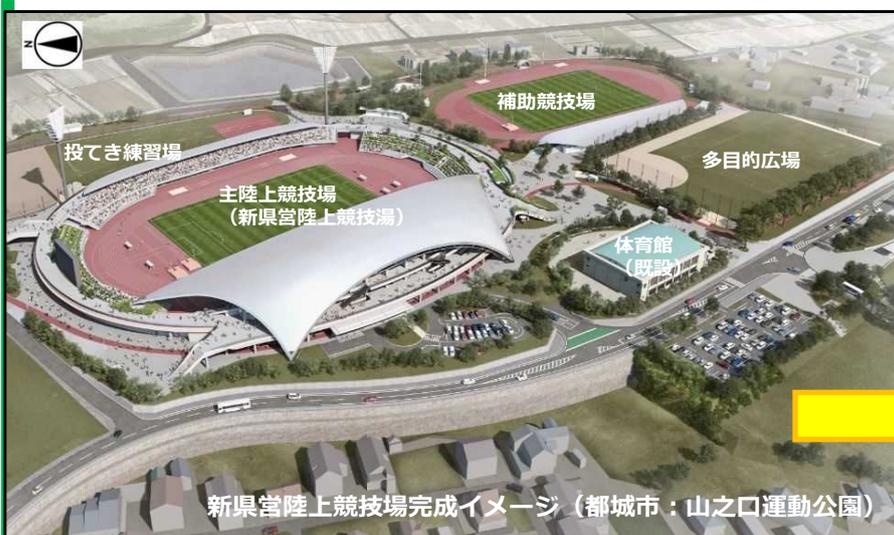


① 「スポーツランドみやざき」の中核施設である宮崎県総合運動公園に津波避難施設が完成！



南海トラフ巨大地震等による津波から、公園全体で約6万1千人の避難が可能に！
防災力向上とともに、安全・安心な総合運動公園として、今後、合宿等のスポーツ誘客の更なる増加にも寄与することが期待される！

② 県内市町の都市公園において、防災公園の整備を推進！



日本のひなた宮崎国スポ・障スポ2027の競技施設となる公園整備と併せて、沿岸地域の後方支援拠点としての機能を持つ、防災公園の整備を推進中！

(県内2市 (都城市、延岡市) において、防災公園事業化済み)



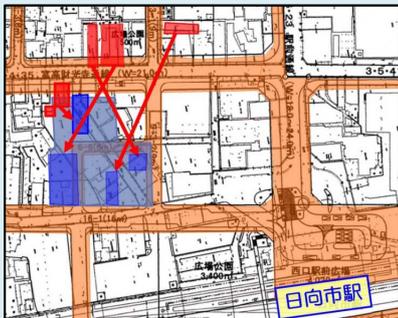
日向市駅周辺地区

整備後

整備前

まちのにぎわい、活力の再生を図るために、4つの施策を同時に進め、抜本的な都市構造の改変を行うことで、中心市街地の整備を推進！

- 連続立体交差事業** 鉄道を高架化し分断された駅周辺地区の一体化
- 土地区画整理事業** 都市基盤整備による交通利便性等の向上 ▶ **令和5年に第一工区整備完了予定！**
- 商業集積区域整備事業** 飛び換地の手法による商店街のコンパクト化、商業基盤施設の整備、ソフト事業等による中心市街地の商業の活性化
- 交流拠点施設整備事業** 交流拠点広場（広場公園）や市民交流プラザ等の複数の拠点施設の整備によるにぎわい空間の創出



飛び換地の手法により商業集積された街区



日向ひよっご夏祭り参加数

約1.4倍

H20 80団体(1514人)
旧会場：日向市役所前広場

R1 111団体(2189人)
会場：交流拠点広場（広場公園）



中心市街地の整備に伴い、市民企画のイベント数・集客数も増加し、市民協働による持続的なまちづくり活動が活発化している。

